



株式会社クレオ



第**51**期
Business Report

2023年4月1日～2024年3月31日

「明日」に挑み、「明日」を創る。

Challenge Tomorrow
Create Tomorrow

株式会社クレオ

証券コード：9698

おかげさまで、創立50周年を迎えることができました

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第51期(2023年4月1日より2024年3月31日まで)の活動を終え、Business Reportをお届けするにあたりまして、ごあいさつ申し上げます。

企業の経営資源・人的資本を管理する分野における投資需要が拡大する中、当社グループは、今後のデジタル社会に対応した新しいビジネスモデルを構築し、次なるステージを切り開いてまいります。創立50周年を機に新たな成長軌道を描き、100年企業を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
柿崎 淳一



創立50周年を迎えられたお気持ちをお聞かせください。



株式会社クレオは、2024年3月22日に創立50周年を迎えることができました。株主の皆様をはじめとした全てのステークホルダーの皆様の今日までのご支援に対し、心より厚く御礼申し上げます。

当社は、1974年3月22日に株式会社東海クリエイトとして創立し、1989年4月には現社名に商号を変更いたしました。創立以来一貫してITを事業フィールドとして、様々な課題解決を提供してまいりました。今後も急速なデジタル化が進むと

予想される未来社会において、世の中のイノベーションを支えてまいります。ITの進化による「豊かな未来社会の実現」を目指して、常にステークホルダーの皆様に寄り添いながら、これからも前進し続けてまいります。



それでは、2024年3月期の概況について教えてください。



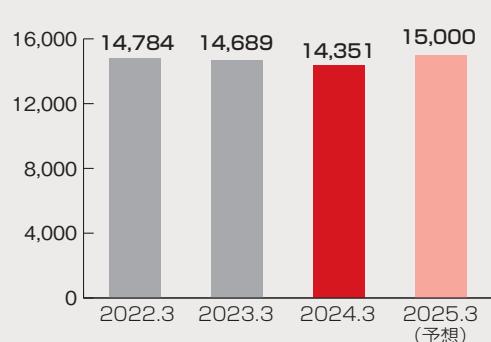
新型コロナウイルス感染症拡大に対する制限解除などにより、世界経済、国内経済に回復の兆しが見られるものの、地政学リスクの高まりによる資源、材料

価格の高騰や世界的インフレの傾向が見られる等、依然先行き不透明感が強い状況です。一方、社会における働き方の変化の中で、企業のIT投資需要は堅調な状態が継続しています。

2024年3月期の業績につきましては、成長事業と位置づけるソリューションサービス事業において、前期に発生した高原価プロジェクト収束の反動が大きく業績に寄与しました。また、市場におけるクラウドシフトの加速によって、従来のライセンス販売からの売上が減少した一方で、利用料モデルが拡大し、業績に貢献しました。受託開発事業では、大型案件の開発完了による反動減はありましたが、アマノ株式会社からの受

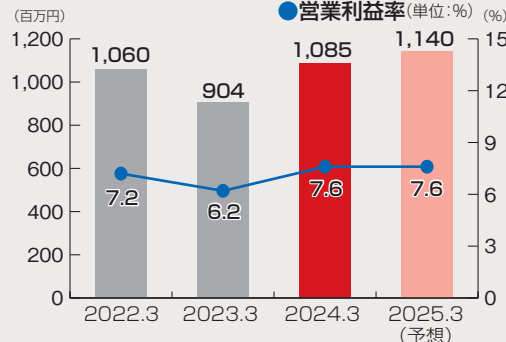
売上高

(単位：百万円)



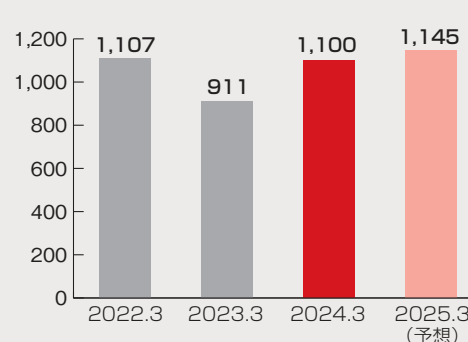
営業利益

(単位：百万円)



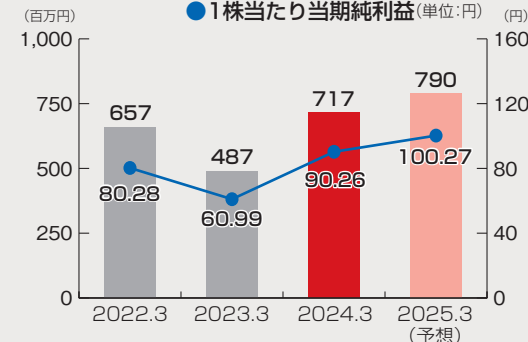
経常利益

(単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



注は拡大しました。システム運用・サービス事業では、主要顧客からの受注が減少しました。

これらの結果、売上高143億51百万円(前期比2.3%減)、営業利益10億85百万円(同20.0%増)、経常利益11億円(同20.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益7億17百万円(同47.2%増)となりました。

Q 今後の取り組み並びに2025年3月期の業績予想についてお聞かせください。

A 当社を取り巻く事業環境について、2027年までの国内ITサービスの市場動向は、クラウドへの移行、インフラ・アプリのモダナイゼーション、顧客企業のデジタルビジネス化に向けた新たなシステム構築と運用等への支援が拡大する中で、全体として堅調な成長が続くものと予想されます。また、当社の主力ビジネスであるERP市場についても、老朽化したERPシステムのリニューアル需要やハイブリッドワーク等の働き方多様化によるシステム刷新需要に加え、クラウドシフトの流れの中でSaaS市場の伸びが顕著になると予想されます。

こうした環境下で、事業戦略としては、既存事業のストックビジネス拡充と生産性向上による価値最大化を図り、アマノ株式会社との協業の強化・拡大を引き続き進めてまいります。さらに、ク

ラウドシフトの加速を背景として、ストックビジネスである利用料モデルへの変革に努めるとともに、HR周辺サービスへの投資・展開強化を図ってまいります。一方で、プロジェクトの品質、価格、納期、サポート対応向上と円滑な遂行に注力してまいります。

営業戦略としては、人財の確保が厳しい中で、ビジネスパートナー政策による調達力の強化を図ります。受注力・カスタマーエクスペリエンスの向上、グループ連携によるクロスビジネス体制の構築を強化するとともに、顧客接点を強化して、リピート率の向上と離反の抑制に努めます。また、HR等のクラウドビジネスのパートナーとの連携強化を拡大してまいります。

技術的には、最新技術の調査・研究を強化し、今後、生成AI等の活用を社内を進めてまいります。そして、AWS、Azureといったクラウド技術有資格者の確保に努めてまいります。

人的資本の価値向上では、人財採用、調達力の強化を進めるとともに、次世代育成カリキュラムを強化してまいります。リスティング、アップスキリング等で人への投資を一層強化しながら、社員の働きやすさ、エンゲージメントの醸成によって、生産性、創造力の向上を目指してまいります。

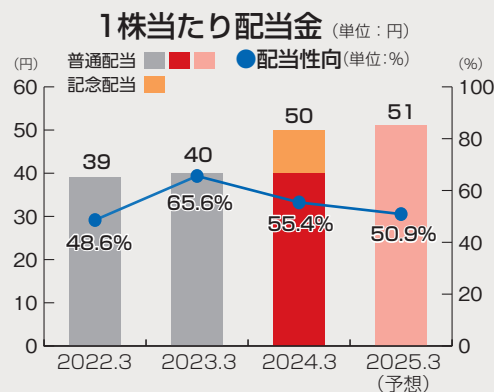
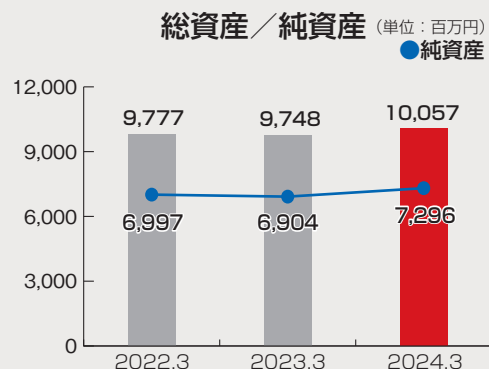
なお、2025年3月期の業績見通しにつきましては、売上高150億円(前期比4.5%増)、営業利益11億40百万円(同5.1%増)、経常利益11億45百万円(同4.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益7億90百万円(同10.1%増)を予想しています。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A 2024年3月期の配当につきましては、当社の創立50周年を記念するとともに、株主の皆様への感謝の意を込めまして、普通配当40円に記念配当10円を加え、50円とさせていただきます。

50周年のスローガンとして、“[明日]に挑み、[明日]を創る。”を社内公募から選定し、50周年を折り返し地点として100年企業を目指し、さらなる「挑戦」と「創造」を続け、次のステージに向けてさらに進化してまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援を賜われますよう、お願い申し上げます。

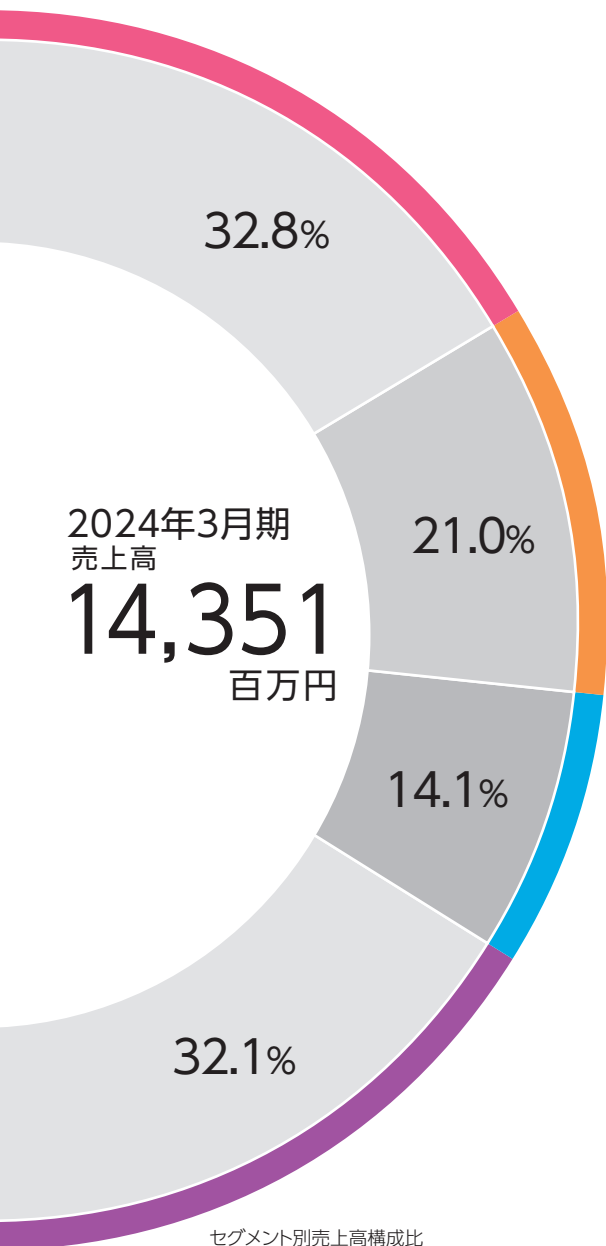


利益配分に関する基本方針と当期・次期の配当について

当社は株主の皆様への剰余金処分を経営の重要な政策の一つとして考えており、配当に関しては長期的な視点に立ち、連結経営成績に応じた安定的な利益の配分を基本方針としております。また、株主の皆様への長期的な利益還元をさらに充実させるため、連結配当性向40%を目標としております。

これらの方針に基づき、2024年3月期の配当金につきましては、普通配当40円に記念配当10円を合わせ、1株当たり50円といたしました。配当性向については55.4%となりました。

また、2025年3月期の配当金につきましては、1株当たり51円、配当性向50.9%を予想しております。

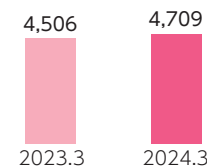


ソリューションサービス事業

売上高 **4,709** 百万円 営業利益 **731** 百万円

高原価プロジェクトの収束により、売上高は前期比で2億2百万円増加、営業利益は前期比で2億21百万円増加いたしました。

売上高 (百万円)

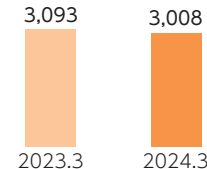


受託開発事業

売上高 **3,008** 百万円 営業利益 **603** 百万円

昨年度から続く大型案件の開発完了により、売上高は前期比で84百万円減少、主要顧客向け案件の堅調な推移及び生産性の向上などにより、営業利益は前期比で35百万円増加いたしました。

売上高 (百万円)

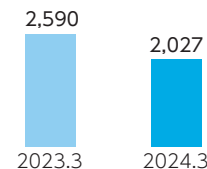


システム運用・サービス事業

売上高 **2,027** 百万円 営業利益 **269** 百万円

主要顧客からの受注不足などにより、売上高は前期比で5億62百万円減少、営業利益は前期比で1億5百万円減少いたしました。

売上高 (百万円)

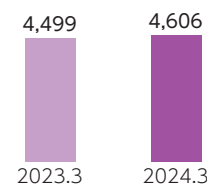


サポートサービス事業

売上高 **4,606** 百万円 営業利益 **381** 百万円

BPOサービスの増加などにより、売上高は前期比で1億6百万円増加、採用活動強化による求人費の増加により、営業利益は前期比で10百万円減少いたしました。

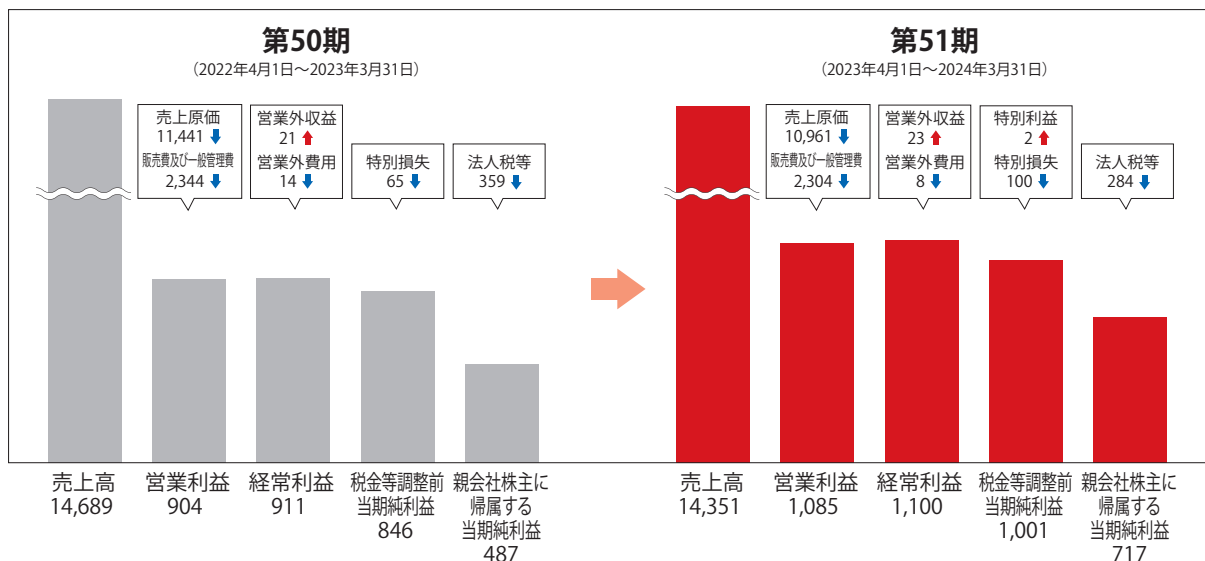
売上高 (百万円)



財務データ

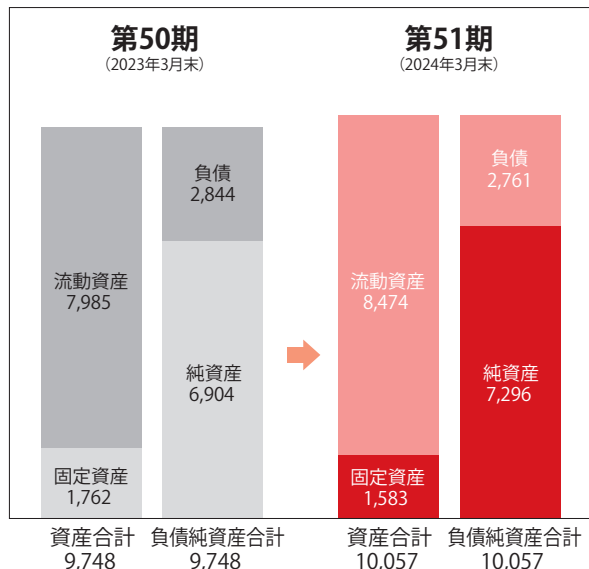
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



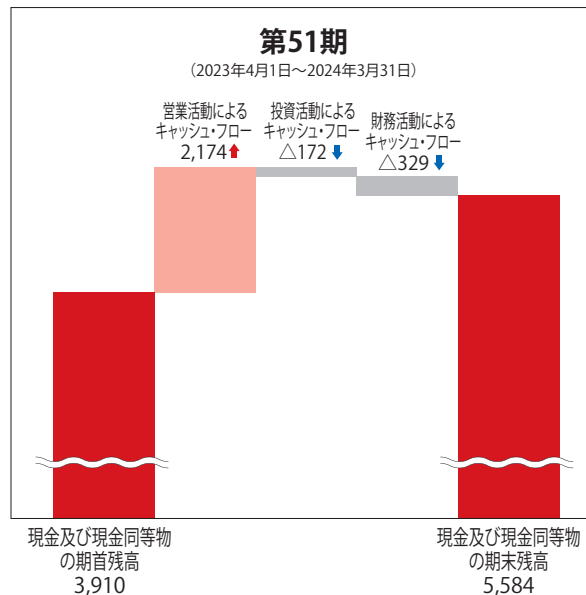
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



	第50期	第51期
経営成績 (単位:百万円)	売上高	14,689
	売上総利益	3,248
	営業利益	904
	経常利益	911
	税金等調整前当期純利益	846
	親会社株主に帰属する当期純利益	487
財政状態 (単位:百万円)	資産合計	9,748
	流動資産	7,985
	固定資産	1,762
	負債合計	2,844
	流動負債	2,630
	固定負債	213
	純資産合計	6,904
		7,296
キャッシュ・フロー (単位:百万円)	営業活動によるキャッシュ・フロー	515
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 350
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 571
	現金及び現金同等物の期末残高	3,910
1株当たり情報 (単位:円)	1株当たり当期純利益	60.99
	1株当たり純資産	869.04
	1株当たり配当金	40.00
財務指標	自己資本当期純利益率 (ROE)	7.0%
	総資産経常利益率 (ROA)	9.3%
	自己資本比率	70.8%

TOPICS

1

株式会社クレオは「創立50周年」を迎えました

2024年3月22日で株式会社クレオは創立50周年を迎えることができました。株主の皆様、お客様、従業員など、全てのステークホルダーの皆様へ、今日までのご支援に厚くお礼申し上げます。

株式会社クレオは、1974年3月22日に株式会社東海クリエイトとして設立され、1989年4月に社名変更しました。常にステークホルダーの皆様に寄り添いながら、100年企業に向けてこれからも前進し続けてまいります。



TOPICS

2

購買統制クラウド・トラミル、 経済産業省「IT導入補助金2024」対象ITツールに認定

クレオがクラウドで提供する購買・調達管理ツール「トラミル」が、公益社団法人日本文書情報マネジメント協会（以下、JIIMA）が実施するJIIMA認証「電子取引ソフト法的要件」を取得に続き、手軽で安価にご利用いただける「トラミル（Lightプラン）」が、今回「IT導入補助金2024」の対象ツールに認定されました。



TOPICS

3

経済産業省「健康経営優良法人2024」に認定

2024年3月、5年連続で経済産業省と日本健康会議が進める健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人2024（大規模法人）」に認定されました。健康経営優良法人認定制度とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組み法人の中で特に優良な健康経営を実践している法人を健康経営のリーディングカンパニーとして評価・認定する制度です。今後も継続的な健康の保持・増進に取り組み、社員やその家族、お客様の幸せを最大化し、豊かな未来社会の実現に貢献してまいります。



会社概要／株式の状況

◆会社概要

商 号	株式会社クレオ
所 在 地	東京都品川区東品川四丁目10番27号
役 員	(2024年6月20日現在)
代表取締役社長	柿崎 淳一
代表取締役副社長	二宮 桐人
取締役	佐々木 尚也
社外取締役	井原 邦弘
社外取締役	春木 謙一
社外取締役	鈴木 良之
常勤監査役	雨田 高志
社外監査役	高橋 貢子(公認会計士)
社外監査役	水田 進(弁護士)
設 立	1974年3月22日
資 本 金	3,149,650千円
連結売上高	14,351百万円 ※2024年3月期実績
従 業 員 数	連結 1,212人 単体 498人

◆株式の状況 (2024年3月31日現在)

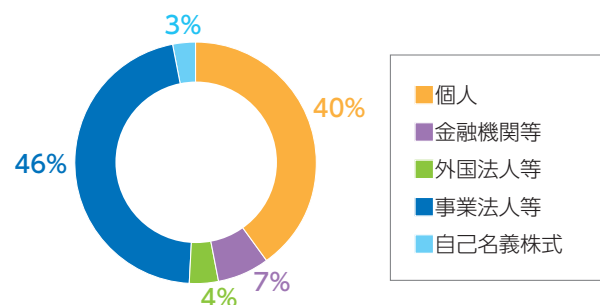
発行済株式総数 8,585,688株
株主数 6,196名

大株主 (2024年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
アマノ株式会社	2,645	31.7
LINE ヤフー株式会社	1,100	13.2
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	385	4.6
クレオ従業員持株会	240	2.9
和田 正次	150	1.8
椎名 敬一	133	1.6
明治安田生命保険相互会社	100	1.2
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	71	0.9
BBH(LUX) FOR MUFG GLOBAL FUND SICAV-MUFG JAPAN EQUITY SMALL CAP FUND	61	0.7
有限会社福田商事	60	0.7

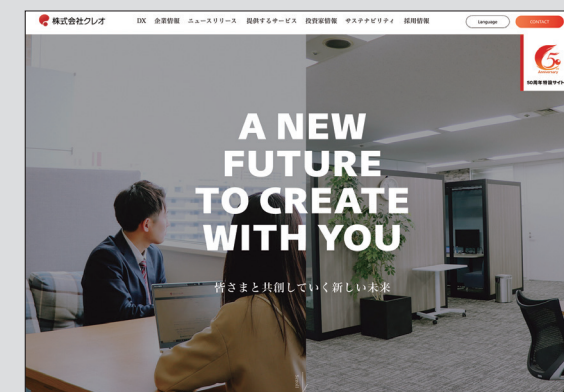
(注) 1. 当社は株式給付信託を導入しており、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が385千株を所有しておりますが、自己株式には含めておりません。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算(小数点第二位を四捨五入)しております。
3. 当社は自己株式を250千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

所有者別株主分布状況



◆WEBサイトのご案内

当社ホームページでは、詳細なIR情報や財務情報など、株主・投資家様向けの情報の掲載はもちろんのこと、メールによる「IRメール配信サービス」も行っております。是非一度ご覧ください。



<https://www.creo.co.jp/ir/>



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告の方法	電子公告の方法により行う。 公告掲載URL https://www.creo.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

理念・行動規範

企業理念

私たちは、「人間の想像力」と「世界中のテクノロジー」を結合することで、「感動！」を生む変革を起こし、豊かな未来社会の実現を目指します。

行動指針

～幸せな企業人であり続けるための7つの行動～

1. 感謝の気持ちを忘れない
2. 信頼すること、されることを重んじる
3. いつも誠実に行動する
4. 心も技術も磨き続ける
5. より健康であり続ける
6. 恐れずに何ごとにも挑戦する
7. 仕事にも社会にも人生にも成果を出す



このロゴには、3つの「想い」が込められています。

1つは「感動」を生むこと

クレオは「感動」を提供する企業です。常に周囲の期待を超え、驚きを提供していく姿をロゴに託しました。ロゴはエクスクラメーションマーク(感嘆符)をかたどりました。球形はクレオ自身を表します。共に語り、共に考え、共に成長するという共創の精神を象徴しています。

1つは「創造」し続けること

クレオの歴史は創造の歴史です。ロゴは、知識や技術、関係の新たな結びつき(新・結合=イノベーション)を発見、創造し続ける決意を象徴しています。クレオ自身を示すこの球体から、次代を担う人財、製品、サービスが次々と生まれ、大きく育っていく姿を表しています。100年企業を目指し、時代時代にあわせ、変化し続ける姿です。

1つは「永遠(とわ)」に寄り添うこと

クレオはいつもステークホルダーの皆様に寄り添う企業でありたいという願いを込めました。ロゴは、クレオ自身である球体が、お客様や社会、株主の皆様に寄り添っているというイメージを表現しています。社会に貢献できる価値を提供し続ける企業であるという私たちの願いを象徴しました。